

# ふくろう新聞

<発行>  
 特別養護老人ホームの郷  
 淡路ふくろう委員会  
 洲本市中川原町  
 中川原28番地1  
 TEL: 0799-25-8550  
 FAX: 0799-25-8551  
 ホームページ  
<http://www.normanet.ne.jp/~hyoufuku/>

## 県下で法人事業の新たな展開を

3月の法人理事会で平成24年度法人事業計画(案)を提出・審議することとなります。  
 旧中川原中学校校舎を連合町内会と共に洲本市より借用して、「中川原高齢者・障がい者ふれあいセンター」事業の一部開所を始め、大きく分けて5つの計画案が立てられ、これらを基に新年度の事業が始まります。

### 平成24年度法人事業計画案

- ① 中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンター  
 地域共同化・地域興しとして位置付ける先駆的な事業として連合町内会、民生委員会等と共同して推進します。
- ② 居宅介護支援事業所「桜ヶ丘」移転  
 介護保険サービスについて気軽に相談を受けます。
- ③ おたがいさま中川原「事業」  
 地域住民の困りごとを地域住民で互いに応援しあ



- ④ ふれあい広場桜ヶ丘  
 地域住民が気軽に交流できる場です。
- ⑤ 兵庫県下で新たな事業展開を  
 各地での「グループホームがほしい」「働く場がほしい」「楽しく交流したい」等、様々な要望に応え、みんなの願いが実現できる事業の具体化を先ずは要
- ⑥ 財源確保  
 ① 施設経営を安定させるための収入の確保  
 ② 新たな事業展開のための財源の確保を図ります。
- ⑦ 四 関係団体との連携の強化  
 事業充実と新たな事業展開に向け、県3団体との連携・情報の共有化やひょうご聴障ネットとの更なる連携を図ります。
- ⑧ 五 法人理念の具体化と豊かな援助の実践  
 ① 法人理念「人権と共生」の体得を目指します。  
 ② 年間研修計画を策定し、職員のスキルアップを図ります。  
 ③ 施設外での実践発表の充実を図ります。

寒い、寒いが口癖になっていた季節も1月は「ぬ」2月は「逃げる」3月は「去る」と言われるほど、あつと言つ間に春です。では「4月は・・・」という「しあわせ」です。ふくろうの郷には幸せを呼ぶ四つ葉のクローバーがたくさん自生しており、芽をふき出しました。さあ、一緒にたくさん「幸せ」を創造していきましょう。



聴覚障害者制度改革推進兵庫本部の呼びかけに呼応し、神戸東遊園地の「3.8 緊急集会」にふくろうの郷、おのころの家総勢25名参加。厚生労働省は自立支援法廃止の約束を守れ！障害者の人権を守れ！とアピール、関西テレビでも報道されました。

### おたがいさま中川原お試し事業ご案内 お弁当持って花見に行こう！

日時：4月6日(金)  
 10:20 発～14:00 帰  
 行き先：論鶴羽ダム桜並木  
 問い合わせ：準備室 濱田



誘いあつての参加申し込みをお待ちしています

中川原高齢者・障がい者ふれあいセンター  
 オープン延期のお知らせ  
 以前から4月1日オープンとお知らせしていましたが、改修工事等の関係で延期となりました。心待ちにしていただいていた方もおられるかと思いますが、何とぞご了承ください。オープン日時が決まりましたら、お知らせします。  
 なお、居宅介護支援事業所桜ヶ丘は従前通りふくろうの郷で営業を行っていますので、お気軽にご利用下さい。



# 手に手をとって押し寿司づくり

弥生3月ひなまつり。今年もふくろうの郷では昼食に「ひな飾り」を形どった押し寿司をつくりました。

切り取った牛乳パックに赤・白・緑に色分けされたご飯を3層に敷き詰め、型を外すと、きれいな菱形の押し寿司に。

ウズラの玉子に黒ゴマで目を、海苔で髪を、ケチャップで紅を入れればお内裏様とお雛様に。

錦糸玉子を飾り付け、お内裏様とお雛様を乗せて出来上がり。

一人で作ることが困難な入居者さんには職員の手伝いも入り、力を合わせての押し寿司作りを行いました。



▲盲ろう者の芝田さんも介護者と一緒に



▲できあがりを手笑顔の新居文男さん

「自分でつくるお寿司」ということもあり、入居者さんたちの意気込みは大きなものでした。ウズラに顔を飾りつけることは細かな作業でしたが、一生懸命目を凝らし、作られました。

食べるのがもったいないようなお寿司が出来上がりました。(生活援助：神代)



職員とつすら顔を描く中務さん

## 誕生日のお祝いを



▲手伝ってくださるご家族

柴山貞子さんは2月が誕生日です。どう楽しんでいただくかと考え、入浴剤を用意して入浴していただくことにしました。

湯船は黄金色に染まり、あたりに花の香りが漂いました。普段とは違う湯船の色と香りにつつまれた柴山さん。ご家族とともに喜びあいました。

ご家族は毎週毎週、大阪から面会に来てくださり、お世話を手伝って下さっています。(生活援助：中畑)

## ふくろう喫茶のお知らせ

開催日：4月15日(日)

13:30～15:00

コーヒー・紅茶・ココア・

カルピスなど1杯¥200より

☆カクテルバーは

お休みです



## 「おたがいさま中川原」事業 応援者登録開始

事業開始に向け、1月末から「おたがいさま中川原」応援者募集を開始しました。3月1日時点で中川原地域から28名の方の登録となっております。

「どのような応援できるのか?」「どの曜日、どの時間帯なら大丈夫なのか?」等、事細かく記入して下さった方、ご夫婦で登録して下さいました。ご関心ある方は問い合わせいただき、ご参加よろしく願います。(準備室：濱田)



▲2月のおたがいさま事業の様子

## 応援者説明会を開催します

日時：4月14日(土)

21日(土)※予備日

ともに13:30～

場所：中川原中学校1階

※21日(土)を希望される方は事前にご連絡ください。

詳しくは淡路ふくろうの郷 濱田まで

### 第15回 淡路耳の日のつどい



淡路耳の日の集いに、ふくろうの郷から入居者16人、職員5人で参加しました。

耳の日は、聴覚への関心とあわせて聞こえない人々が人として誇りをもって生きてゆくことを確かめあう日です。つどいは今年が15回目となります。

当日は島内からろう者、手話サークル、難聴者、一般の人たち等、総勢200人余りの参加者で会場が一杯でした。

時期同じく国が2月8日に公表した障害者自立支援法一部改正案の内容が障がい者制度改革推進会議でまとめた「障害者福祉法骨格提言」や障害者自立支援法違憲訴訟における和解文書を反映せず、応益負担の廃止や聴覚障害者に関わるユニニケー

## 障害者自立支援法の廃止と新たな福祉法の実施を

ション支援の充実も全く触れられていないため、淡路聴力障害者協会、中途失聴難聴者の会、島内の手話サークル等6団体から「障害者自立支援法の廃止と新たな福祉法の実施を」とのアピールがありました。

その後、福岡ろう協会の吉田宏氏による「軍艦島におけるろうあ者の生活について」というテーマで講演があり、軍艦島が国のエネルギー政策により廃坑となったことの歴史的な背景やろう者が坑夫として生活していたこと、軍艦島が一般公開となつた後、ろう者見学拒否事件があり、未だにろう者への差別が行なわれていることについて、怒りをもって力説されていました。

不便な中で遅く生きてきたろう者の生活を埋もれさせてはならない、未だに続いている差別問題を埋もれさせてはならないとの吉田氏の思いは淡路ふくろうの郷の取り組みや、障害者の人権を尊重した法改正要望の取り組みとも繋がるものだと思います。

(総務 辻)

## 障害者の自立支援・適切なサービス利用に向けて

### 障害者相談ケアマネジメント対象者の拡充へ

#### ◆平成24年度から拡充

県相談支援事業従事者研修会に参加しました。障害者自立支援法の改正について、県障害福祉課西村課長より説明がありました。障害者の相談支援については、従来はケアマネジメントは障害が非常に重度でたくさんのサービスを組み合わせる必要があったり、家族からの支援が受けられないとか非常に限られた人が対象でした。今回の改正で、対象者が「障害福祉サービスや、地域相談支援を利用するすべての障害者(児)」へと大幅に拡大されます。障害者(児)の自立した生活を支え、抱える課題の解決や適切なサービス利用に向けて、ケアマネジメントによりきめ細かく支援することができるようになります。平成24年度から段階的に拡大し、平成26年度までに全ての対象者について実施されます。

また実際に、障害者がサービスを受けるためには、特定相談支援事業者がケアマネジメントにより作成するサービス利用計画を提出してもらいサービス

の支給を決定してもらうこととなります。(特定相談支援事業者については、市町村が指定します)

サービスが適切にされているかどうかのモニタリングについては、市町村が対象者の状況等を考え個別に定める仕組みとなつていきます。

#### ◆連携の大切さを学んで

県下の相談機関の取り組みについても各機関から話がありました。「連携」「ネットワーク」と言葉では簡単に言いますが、それぞれの機関が役割分担を行いながら、その中でどの機関が主体的に関わることがベストなのかを考え、社会資源を正しく知り、上手く活用して支援に繋げていくこと、同時に、何か困ったときには関係者が集まってすぐに相談できる関係作りも重要であること、また、本人・障害者(児)という視点でみるのではなく、「人」として支援にあたることを再認識することができました。

(淡路聴覚障害者センター長

瀬田)

## 今年も洲本第一小学校とふれあい深まる



手話で「世界にひとつだけの花」を披露してくれて、ユニットでは入居者とカップケーキ作りをしました

2月9日に洲本第一小学校4年生のみなさんが来て下さり、入居者と交流をしました。この日の感想のお手紙を貼りに掲示して入居者、職員的心を和ませてくれています。



# 続・地域を語る

第39回

## 大歳神社のお祭りとの矢の神事

(中川原町安坂)

炬口八幡神 浜口禧寛宮司

中川原町地区の厚浜を除いての、中川原、三木田、安坂、市原、二ツ石の五地区には、大歳神社が祀られているが、兵庫県内では三百八十社もの大歳(年)神社がある。これは兵庫県の神社総数の約一割に達する、おびただしい数である。

安坂の大歳神社も他の地区に祀られている大歳神社と同じで、元の祭典日は一月十八日であったが、現在では四月第二日曜日に執行されている。即ち春祭に当る祭典で、祈年祭とも言はれている。祭典に先立って、祭礼団の青年による獅子舞いの奉納があり、本殿祭では、その年の豊作祈願を行い、町内会長を始め町内の役員・又当人として42才の男の厄年・33才の女の厄年・八十八才(米寿)の男

女・三才の稚児が昇殿し、お祓らいをうける。

次に境内にたてられた的(〇の中に「鬼」と書かれた的)を射る御弓神事(的矢)を行う。これは悪魔退散の目的と年占の意味を兼ねた神事で、首尾よく鬼を射抜くと、その年は悪霊がいなくなつて疾病が治るとか、豊作になるといふ。

(三木田の大歳神社では的矢を行う前に、厳肅な献盃祝言の式を行う)弓を射たあとの矢は参詣者が、持ち帰って悪魔除け、病気除け、五穀豊穰などのお守りにする。

この後景品付きの餅まきを行い、神輿を先頭に御神幸が離れた境内地に順行し神幸地での神事を行い、獅子舞の奉納があり、終わって神社へ帰着する。



▲ 御弓神事 (イメージ写真)

## 五周年記念誌感想

その人が一番望んでいること

兵庫手話通訳問題研究会

森 節子

何度も読み返しました。差別を受け虐げられた時代を生き抜いてこられたろう高齢者の方々が、ふくろうの郷に入所して介助を受けるだけでなく、ご自身を語られ、学びの喜びを知り、働き、生き生きと暮らしておられる姿に胸が熱くなりました。

私自身、つらい思いで立ち止まっていたのですが、入所者のみなさんから「生きる力」を学び、元気をいただきました。

ふくろうの郷では「自治会活動」「ふくろう工房」「ふくろう大学」「ゆつたり寛ぐ」の四つの柱を基に職員の方々が、入所者のお一人おひとりの人生に寄り添い、その人が一番望んでいることは何か、その為には何ができるのかを試行錯誤しながら頑張っておられます。実現できないかもしれないと思いつくのではなく、努力してカベを取り除いていくという職員のお話

に共感しました。

地域と一体になって取り組んでいるふくろうの郷のような老人ホームが私の地域にも欲しい!みんなできくりたい!この本を読んで強く思いました。

## 淡路ふくろうの郷 開所5周年記念誌

頒価 2,000円

ホームページで感想文掲載中!  
「淡路ふくろうの郷」等で検索して下さいね。

## 「一人ひとりが輝く」-大矢施設長編集参画-

わたくしたちのまわりに「ひとりぼっちのろう者」はいないだろうか…。

本書『一人ひとりが輝く』は、孤立・隔離・分離され、棄民化、淘汰されてきたなかまたちの「尊厳と人権・自由・民主主義」を土台とした拠点づくりの、苦難とロマンの物語です。

わたしたちの拠点づくりは、新しい地域共同体の再生にもつながるでしょう。



価格 1,575円

淡路聴覚障害者協会でも取り扱っています。

FAX 0799-26-0888

発行 (財)全日本ろうあ連盟 出版局



## 檀尻が来ます

今年も中川原の檀尻が来てくれます。  
日時：4月8日(日)午後より  
※雨天中止